

平成 29 年度 山形県行政支出点検・行政改革推進委員会 第 2 回 会 議 会 議 概 要

◇ 日 時 平成 29 年 9 月 19 日（火） 13：30～15：35

◇ 会 場 県庁 1001 会議室

◇ 出席委員

委員長 高橋和

委 員 岡田新一、尾形律子、佐藤亜希子、清野洋輔、三浦新一郎、山上絵美
(欠席：三木潤一)

〈五十音順、敬称略〉

■委員の主な意見等

議事（1）情報公開・提供の検証、見直しについて

〈発言順〉

（三浦新一郎委員）

- 県政について、県民に説明する責任を果たして、県政に対する理解と信頼を深めるという趣旨のコンセプトはとても良い。
- 現状をしっかりと把握したうえで、積極的に情報開示していく姿勢が大事。
- スピーディーな開示という観点も県民との信頼関係を構築するという点では重要。

（佐藤亜希子委員）

- 情報公開は県民に対して県がしていることをきちんと示していくという点で非常に重要。
- 開示請求が多い分野について積極的にPRしていくのも一つのやり方だと思う。
- 誰にでもわかりやすく公開するという視点も大事。

（尾形律子委員）

- 県民に向けての行政サービスという観点から、見える化委員会に対して非常に期待が高まると思う。
- 具体的にわかりやすく行政サービスが身近に感じられるような開示をしてほしい。

（岡田新一委員）

- 情報公開は県民サービス向上の一端。難しい内容の情報であっても、住民が理解できるように公開してほしい。

（三木潤一委員）※欠席のため、書面による御意見

- 非公開は最小限にとどめ、原則的には公開するという立場でルールを作成してほしい。

ま と め

（高橋和委員長）

- 住民にわかりやすい内容にしたうえで、公開できる情報は全部公開してほしい

い。

- スピーディーな公開も非常に重要。
- 住民がアクセスしやすいような手続きの簡素化も検討してほしい。

議事（２）公社等の総点検について

<やまがた新電力>

（三浦新一郎委員）

- 再生可能エネルギーの普及や地域での活用という点で重要な会社だと思う。
- 今後の課題は供給先の拡大による安定した経営基盤の確立という点だと思う。

（佐藤亜希子委員）

- 将来に向けて安定的なエネルギー確保の新しい形を模索していくということは、安心な県民生活にとっては必要。将来的にも非常に事業意義があると考えている。
- 現在、発電事業者からの電源調達量と需要家に対する電力供給のバランスがどのようになっているのか、また、民間施設への拡大のターゲットを教えてください。

（清野洋輔委員）

- 発電事業者にとって、今後10年、20年で買取価格が下がるとどのような影響があるかお聞きしたい。

（山上絵美委員）

- 現在の太陽光発電の買取価格は一般の住民が負担しているが、やまがた新電力の場合はどうなのか、教えてください。

（三木潤一委員）※欠席のため、書面による御意見

- 電力を地産地消する意義について御説明をいただきたい。

（高橋和委員長）

- 委員会として事務局案の方向性で「妥当」とする。

<山形県生活衛生営業指導センター>

（山上絵美委員）

- 類似事業団体との統合は難しいと思う。業務効率化を図っていきたいということだが、この資料に職員の意見は反映されているのか。

（佐藤亜希子委員）

- 団体自体が法律に基づき設立されているので、事業自体には意義があるものと思う。
- 対応方針の中に、クリーニング師研修の受講率を向上させて収益強化とあるが、伸びしろがあるのか疑問。
- インターンシップ事業を通して最終的に地元に着地してもらうことが着地

点。そのような働きかけにも力を入れていくと良いと思う。

(清野洋輔委員)

- 田舎に行けば行くほど、後継ぎ不足が深刻な状況。将来の交流人口の増加にも繋がっていくと思うので、インターンシップ事業に関しては力を入れて頑張してほしい。

(高橋和委員長)

- 法律に基づき設立されていて、他に代替できない。経営の健全性もある。インターンシップ事業をしっかりやってほしいという希望もある。
- 委員会として事務局案の方向性で「妥当」とする。

<山形県総合社会福祉基金>

(佐藤亜希子委員)

- 現時点ではどういう形で民間からの寄付を受けているのか、どういう形でPRしているのか教えてほしい。

(高橋和委員長)

- 当期純損失が出ているが、保有有価証券の時価評価の変動であり、直接の負債ではないということなので、事務局案の方向性で「妥当」とする。

<山形県臓器移植推進機構>

(高橋和委員長)

- 特に意見がないようなので、事務局案の方向性で「妥当」とする。

<山形県社会福祉事業団>

(三浦新一郎委員)

- 県が運営する意義はあると思うが、特老については民間でも多数の事業体がある。民間移譲について検討しているか。
- 障がい者支援施設のコストを賄うために特老部分で収益を出しているのか。
- より効率的な運営を図り、(県内高齢者施設の先導的な)役割をしっかりと果たしたうえで継続してほしい。

(岡田新一委員)

- 事業については、非常に大きな意義があると思う。
- 財政的関与を段階的に縮小するということだが、どの程度、施設や人件費に影響するのか。もし人件費や雇用問題等に発展するのであれば、丁寧な対応が必要だと思う。

(佐藤亜希子委員)

- 特別養護老人ホーム4施設の意義や費用対効果の現状について説明をお願いしたい。

- 高齢者施設については民間企業や社会福祉法人の運営が増えてきている。この部分については、特に自立に向けた段階的な縮小が必要なのではないかと思う。

(尾形律子委員)

- 高齢の障がい者の施設を運営していくには、民間の社会福祉法人ではなかなか難しいと伺っている。高齢の障がい者の受け入れ先が見つからないという相談を受けることもある。
- そういう状況を踏まえると、むしろ事業団で受け入れ先となる施設を作ってもらえないかという感想を持った。

(高橋和委員長)

- 事業団として特養を持っているという意味は、経営効率の観点と受け皿としての役割の両面がある。
- 移行段階ということも踏まえ、事業を継続するという事務局案の方向性で「妥当」とする。

<山形県埋蔵文化財センター>

(佐藤亜希子委員)

- 県の文化を継承していくために本当に必要な機関であり、非常に意義のある団体だと思う。
- 現状に甘んじることなく、累積損失の解消などは専門家の助言を元に進めていくべきだと思う。併せて、県民に対する広報にも今後力を入れて理解を広げていってほしい。
- 文化財は良いコンテンツになると思うので、観光とも連携しながら周知を進め、さらに事業意義を多くの人に理解してもらえるように努力していくことも必要だと思う。

(高橋和委員長)

- 累積損失の解消への道筋がどのくらい具体的にになっていくかがポイントだと思う。
- 現段階では検討中ということだが、重要な事業であることは皆さん認識しているようなので、委員会として事務局案の方向性で「妥当」とする。

<山形県体育協会>

(清野洋輔委員)

- 新しいレクリエーション競技などの情報発信は、各市町村の体育協会に任せられているのか、それとも県の体育協会が自らしているのか。SNSなどで、若い人たちにもわかりやすく発信してもらいたい。

(高橋和委員長)

- 5期連続の純損失というのが大変気になっている。スポーツ関係の事業で収入を拡大してこの純損失を出さないように、克服する道が示されると良いと思う。

- 事務局案の方向性で「妥当」とする。

<山形県暴力追放運動推進センター>

(高橋和委員長)

- これは必要ということで、事務局案の方向性で「妥当」とする。

議事(3) 山形県県有財産総合管理(ファシリティマネジメント)基本方針 の見直しについて

(岡田新一委員)

- 未利用地の売却も必要だが、県有財産の有効活用なども積極的に検討した方が良いのではないかと。

(尾形律子委員)

- 余裕スペース等の有効活用などの情報はどこで知ることができるのか。
- 庁舎の空きスペースでPRできるような機会があれば、皆こぞって応募するのではないかと。

(高橋和委員長)

- 最初の情報公開の問題と非常に強く結びついていると思う。きちんと情報公開してもらえると民間も知恵を出しやすい。うまく両輪で動いてもらえるとありがたい。
- トータルコストの算定で、人口減はどれくらい見込んでいるのか。
- 人口が極端に減っていくところと逆に増えていくようなところもあるので、メリハリのある管理の仕方も考えていく必要があるのではないかと。

ま と め

(高橋和委員長)

- ファシリティマネジメントにおいても、しっかりと情報公開しながら、県民と意見交換しながら進めてほしい。

以上